

# テレビ番組表からみた現代社会の諸相（その6）

現代社会の総理解のために

伊佐治 大陸

## Aspects of Modern Society Viewed from the Angle of TV Programs (6) Toward An All-Round Understanding of Modern Society

Tairiku ISAJI

### はじめに

「たかがテレビ、されどテレビ」といわれるように、TVはフツウの人々つまり一般市民・大衆にとって特別にいいものでも、また悪いものでもない。それはまさに現代社会そのものの反映であって、人々は茶の間のTVを通じてさまざまな角度から現代社会を把握している。光陰矢の如くまた1年が過ぎ去り、'80年代という一つの時代もいつのまにか半ばを越そうとしている。今回もまた、筆者は現代社会の総理解のためのキーワードを捜し当てる目的から、この1年間（'83年7月～'84年6月）のTV番組表を追跡してきた。朝の新聞に掲載されるTV番組表は、'83年9月からの「テレビ愛知」（UHF 25ch）の開局によって一段と賑やかさと多様性を増すことになった。これを機会に先回まで対象としてきたNHK総合TV、NHK教育TV、名古屋（NBN）TV、中日（CBC）TV、東海（THK）TV、中京（CTV）TVの6局に、「テレビ愛知」「岐阜テレビ」「三重テレビ」の3局を加えた合計9局のTV番組表を研究素材の対象とすることにした。

この1年間（'83年7月～'84年6月）で9局のTV番組表からピックアップしたワードは合計240個である。そのうち129ワードは'83年後半、111ワードは'84年前半からのものである。平均して1カ月に20個ずつのワードを析出したことになる。240個のワードの中には現代社会のシンボルとでもいふべきワードがいくつか含まれているが、2つの指標からそれを抜き出してみよう。まず、この1年間のTV番組表に複数回数登場したワードを取り上げてみる。頻度11回以上の超大型ワードは「おしん」「科学万博」「ガンダーラ美術」「コアラ」「サラエボ」「男女雇用平等法」「ニューメディア」「放送衛星」の8ワードである。6～10回登場した大型ワードは「IC」「AIDS」「エリマキトカゲ」「戸塚ヨットスクール」「バイオテクノロジー」の5ワードである。頻度4～5回の中型ワードは「遺伝子工学」「花粉症」「グレナダ」「高齢化社会」「コピー食品」「森林浴」「宅配便」「ツッパリ」「テクノポリス」「登校拒否」「徳山村」「ひょうきん」「ベリリウム」「ホスピス」の14ワードである。

次に9局のTV局の中で複数のTV局の番組表に登場したワードについて取り出してみる。5～6局にまたがるTV番組表に登場した超大型ワードは「サラエボ」「ニューメディア」の2ワードである。3～4局にまたがるTV番組表に登場した大型ワードは「エリマキトカゲ」「科

学万博」「コアラ」「森林浴」「宅配便」「ツッパリ」「テクノポリス」「登校拒否」「徳山村」「バイオテクノロジー」「半導体」「ベリリウム」「メルルーサ」の13ワードである。

この2つの指標を勘案して、3局以上のTV局にまたがり、しかも出現頻度10回以上のワードを現代社会のシンボルとしてみなすとすれば、それは「エリマキトカゲ」「科学万博」「コアラ」「サラエボ」「バイオテクノロジー」「ニューメディア」の6ワードとなる。TV番組表というアングルからとらえる限り、この6ワードが現代社会を最もよく表現しているといえよう。つまり、これはマスメディアとしてのTVが選んだ「現代社会のベスト6」である。

さて筆者は、これら超大型・大型ワードを含む合計240のワードの中から、前回までと同じように60のワードを現代社会のキーワードとして選出した。60のキーワードはあらゆるジャンルから選ばれている。一つの分野からでなく、現代社会をあらゆるジャンルからみてバランスよくトータルに把握したいためである。Table 1は60のキーワードをあいうえお順に配列したものである。Table 1の中には訂正・加除を試みて表現上の統一を行ったキーワードがいくつか含まれている。本文で展開するキーワードの説明文にとって、そのほうが適切だと考えたからである。それは、「ガンダーラ」または「ガンダーラ美術」とTV番組表にあったものを「ガンダーラ美術」に、「科学万博」を「国際科学技術博覧会」に、「習熟度別教育」を「習熟度別指導」に、「セーシェル」を「セーシェル共和国」に、「ダウン症児」を「ダウン症」に、「男女雇用平等法」「雇用平等法」「男女雇用平等法案」とあったものを「男女雇用平等法案」に、「徳山ダム」「徳山村」とあったものを「徳山村」に、「戸塚ヨット」「戸塚ヨットスクール」「戸塚事件」を「戸塚ヨットスクール」に、「放送衛星」「衛星放送」とあったものを「放送衛星」に、「メオ族」を「モン族」に修正・統一したことである。

こうして作成されたTable 1のキーワード・ピクチュアIを立体的に再構成し、各ブロック毎に分類・整理したものがTable 2である。ブロックは従来の方法に依拠しつつ、ブロックI～VIIIまで「時事問題」「国際問題」「学芸常識」「科学技術・経済問題」「現代医学」「現代生活・時代感覚」「スポーツ・教育問題」「TVに登場した7人の人物」と8ブロックにグルーピングしてみた。従来とやや異なるのは「現代科学技術」のブロックを「科学技術・経済問題」と変えた点である。また、それぞれのキーワードの頭には簡潔な理解のためのタイトルをつけてみた。Fig.2ではやや目鼻がついて「ピクチュア」として見やすくなっているものの、キーワードの分類・整理は実際に行ってみると意外と容易ではない。現代社会における人々の関心が学際的分野に注がれ、現代社会の動向が従来のアカデミズムによっては腑分け困難になっていることも手伝って、キーワードのいくつかは一つのブロックにおさまらずに複数分野にクロスオーバーしてしまいがちである。キーワード・ピクチュアIIは一つの試案としての分類・整理であり、他の方法によるピクチュア構成が考えられてもよい。なお「TVに登場した7人の人物」についてはI～VIIIまでのいずれかのブロックに含めるべきであるが、従来と同じように「時の人物」の意味から1ブロックを設定した。

本文では、60のキーワードについて理解を深めるための文章化を行う。TV番組表から析出された60キーワードは、いずれも現代という時代を彩る重要なワードばかりであり、新しく話題になったことや新造語も少なくない。これらのワードの強い認識のための文章化は流動的・変動的となる局面を持つが、できる限りそのワードのルーツを探ることを心がけつつ文章化の作業を進める。ブロックI～VIIIまでTable 2の順序に従って各キーワードに関する定義・説明の文章化を行い、現代社会の総理解をより具体的に深めることに努める。なお、本稿(その6)ではTable 2の前半(ブロックI～IV)について扱い、後半部分(ブロックV～VIII)については

Table 1 Key Words Picture I

1	I N F	Intermediate-Range Nuclear Force
2	アルハンブラ宮殿	Alhambra
3	遺伝子工学	genetic engineering
4	イトウ	Hucho perryi
5	右 脳	right brain
6	エリマキトカゲ	Chlamydosaurus kingi Gray
7	エル・ニーニョ	El Niño
8	おしん	Oshin
9	外食産業	<i>Gaishokusangyo</i>
10	花粉症	hay fever, Heufiever
11	ガンダーラ美術	Arts of Gandhara
12	木下恵介	Keisuke Kinoshita
13	くれない族	<i>Kurenaizoku</i>
14	グレナダ	Grenada
15	コアラ	koala, Phascolarctos cinereus
16	高品位テレビ	HDTV, High-Definition TV
17	高齢化社会	silver society
18	国際科学技術博覧会	EXPO'85, International Science and Technology Exposition
19	小林秀雄	Hideo Kobayashi
20	コピー食品	copy food
21	胡耀邦	Hu Yao-bang
22	斉藤喜博	Kihaku Saito
23	ザ・デイ・アフター	The Day After
24	サラエボ	Sarajevo
25	サリー・ライド	Sally Kristem Ride
26	四万十川	Simanto River
27	習熟度別指導	teaching based on classification by achievement level
28	しらせ	<i>SHIRASE</i>
29	森林浴	Green Shower
30	生徒心得	Pupil's Manners
31	セーシェル共和国	Republic of Seychelles
32	ソグド商人	Sogdian merchants
33	ソフトノミックス	softnomics
34	第2の太陽系	the second solar system
35	ダウン症	Down's syndrome
36	高見山大五郎	Daigoro Takamiyama
37	宅配便	parcel transport service
38	男女雇用平等法案	the bill of fair employment based on sexual equality
39	単身赴任	<i>Tanshinfunin</i>
40	テクノポリス	technopolis
41	登校拒否	school refusal
42	徳山村	Tokuyamamura
43	戸塚ヨットスクール	Tozuka Yacht School
44	ニューメディア	new media
45	ねむの木学園	Nemunoki Gakuen
46	バイオテクノロジー	biotechnology
47	バイオマス	biomass
48	箱庭療法	sand play technique
49	半導体	semiconductor
50	ビタミンK	Vitamin K
51	ブルネイ	Sultanate of Brunei
52	放送衛星	BS-II, Broadcasting Satellite-II
53	ホスピス	hospice
54	ホルムズ海峡	Straight of Hormuz
55	緑の党	Die Grünen
56	メルルーサ	Merlucciidae
57	モン族	the Hmong tribe
58	ラマーズ法	Lamaze Technique
59	レスター・C・サロー	Lester C. Thurow
60	レスポ	LESPO'84, leisure, recreation and sports games

Table 2 Key Words Picture II

ブロックⅠのキーワード	科学技術	18	国際科学技術博覧会
「時事問題」	都市問題	40	テクノポリス
	放送技術	52	放送衛星
	南極観測	28	しらせ
	ロックフィルダム	42	徳山村
ブロックⅡのキーワード	女性問題	38	男女雇用平等法案
「国際問題」	反核・反原発	55	緑の党
	核戦力	1	INF
	中東問題	54	ホルムズ海峡
	米軍侵攻	14	グレナダ
	異常海流気象	7	エル・ニーニョ
	世界現勢	31	セーシェル共和国
ブロックⅢのキーワード	天文学	51	ブルネイ
「学芸常識」	四国河川	34	第2の太陽系
	鮭科	26	四万十川
	深海魚	4	イトウ
	スペイン建築史	56	メルルース
	中央アジア史	2	アルハンブラ宮殿
	仏教美術史	32	ソグド商人
	民族学	11	ガンダーラ美術
ブロックⅣのキーワード	放送技術	57	モン族
「科学技術・経済問題」	情報技術	16	高品位テレビ
	エレクトロニクス	44	ニューメディア
	生命工学	49	半導体
	生物技術	46	バイオテクノロジー
	サービス産業	47	バイオマス
	経済のソフト化	9	外食産業
	輸送サービス	33	ソフトノミックス
ブロックⅤのキーワード	生命科学	37	宅配便
「現代医学」	大脳研究	3	遺伝子工学
	アレルギー	5	右脳
	健康増進	10	花粉症
	抗出血作用	29	森林浴
	自然減痛分娩	50	ビタミンK
	障害児	58	ラマーズ法
	医療施設	35	ダウン症
ブロックⅥのキーワード	似せ物食品	53	ホスピス
「現代生活・時代感覚」	転勤	20	コピー食品
	未来学	39	単身赴任
	有袋目	17	高齢化社会
	爬虫類	15	コアラ
	TVドラマ	6	エリマキトカゲ
	若者用語	8	おしん
	核戦争TV映画	13	くれない族
ブロックⅦのキーワード	冬季オリンピック	23	ザ・デイ・アフター
「スポーツ・教育問題」	身障者スポーツ大会	24	サラエボ
	学習指導	60	レスポ
	生徒指導	27	翌熟度別指導
	心理療法	30	生徒心得
	学校嫌い	48	箱庭療法
	いじめ社会	41	登校拒否
	児童福祉	43	戸塚ヨットスクール
ブロックⅧのキーワード	宇宙開発	45	ねむの木学園
「TVに登場した7人の人物」	日本映画	25	サリー・ライド
	批評文学	12	木下恵介
	中国政治	19	小林秀雄
	教授学研究	21	胡耀邦
	相撲	22	斉藤喜博
	経済理論	36	高見山大五郎
		59	レスター・C・サロー

別稿(その7)に譲ることとした。

## ブロック I のキーワード「時事問題」の理解

### 国際科学技術博覧会

日本語の通称は「科学万博——つくば'85」であるが、正式名称を国際科学技術博覧会という。「人間・居住・環境と科学技術」をテーマに、茨城県の筑波研究学園都市を舞台にして'85年3月から6カ月にわたり開催される。科学万博の目的は、青少年を中心とする国内外の人々に対して科学技術への理解を深めてもらうことであり、21世紀へ向けての科学技術と人間のかかわりについて新しいイメージを国民的規模で探ろうとするものである。

科学技術庁と国際科学技術博覧会が中心になって開催する科学万博は、国際博覧会条約に基づく特別博覧会であり、'70年の日本万国博覧会(大阪万博)と'75年の沖縄国際海洋博覧会に次いで日本で開かれる3回目の国際博である。

2,000万人の入場が見込まれる会場(大きさは沖縄海洋博とほぼ同じの100ha)には、政府館、外国館、民間館などが配置される。国内からは29の企業・グループが参加し、各々のパビリオンには頭脳マシン、超能力ロボット、大型コンピュータ、立体映像、ジャンボトロン(画面25m×40mの巨大TV)、液晶アストロビジョンなど21世紀を拓く科学技術の成果が出展される。'84年4月からはパビリオン建設のトップを切って、科学万博の目玉の一つとしての政府館が着工に入った。9月にはほとんどのパビリオンが外観を整え始めた。



図1 科学万博のシンボルマーク

### テクノポリス

テクノロジー(技術)とポリス(都市)を組み合わせて造語された和製英語である。通産省が目ざす21世紀型の未来都市づくりに与えられた名称がテクノポリスである。それは高度技術集積都市であって、人口20~30万人ほどの既存の地方都市近郊にコンピュータ産業、情報通信産業、工科系大学、民間研究機関を誘致し、公害のない、うるおいのある都市をつくらうとする地域開発プランである。テクノポリスでは、IC(集積回路)など先端技術産業を集めた産業区(インダストリアル・ゾーン)、工科系大学や民間研究所などを集めた学問区(アカデミー・ゾーン)、芸術、緑地帯など文化・環境面に恵まれた居住区(ハビテーション・ゾーン)という産・学・住の3者の有機的な結合が図られる。

基本構造と基礎調査の段階は終り、'83年7月にはテクノポリスとしての指定地域の要件や税制優遇策などを盛り込んだ高度技術工業集積地域開発促進法(テクノポリス法)が施行された。政府は名乗りをあげていた全国19の候補地域を開発構想策定地域として認め、テクノポリス法に基づいて計画の具体化を進めつつある。19地域の中には浜松、富山も入っているが、近くに大型空港をもつ秋田、大分、熊本、鹿児島が開発の先行グループである。テクノポリス構想は、人口の地方定住を進めつつ、自然と現代工業文明が調和した都市づくりを目ざしている。

### 放送衛星

'84年1月、宇宙開発事業団は日本初の実用放送衛星BS-IIを載せたNII型ロケットを鹿児島県種子島宇宙センターから打ち上げた。ゆり2号aと命名されたこの衛星(製造元はゼネラル・エレクトリック社)は、縦1.6m、横2.2m、高さ2.9mの箱型で、軌道上にて全身8.5mの自家発電用の太陽電池パネルを開いた。衛星は東経110度の赤道上空35,800kmの静止軌道を回り、放送局からのTV電波を中継・増幅して再び地上のパラボラアンテナに直接送り返してくる。衛星は赤道上空から日本全

国をすっぽり包むようにSHF電波を送ってくる。これはVHF帯やUHF帯のTV電波に比べ、雑音の入りにくい12ギガヘルツの電波であり、地上の各家庭では、受信するためには専用の小型パラボラアンテナ、BSコンバータ、BSチューナーなどの機器が必要である。

衛星は2月には静止軌道に乗り、5月からは本放送の開始によってNHK総合、教育の2chの画像がキャッチできる予定であった。しかし衛星中継器の故障のため総合TV1chのみの放送となった。故障により放送実用衛星局から試験衛星局に格下げとはなったが、5月12日には宇宙からの直接衛星放送がスタートした。衛星による放送の主目的は、離島や山間部など全国22,000カ所のTV電波の届きにくい難視聴地域を解消することである。沖縄県北大東島、南大東島、東京都小笠原諸島など全国42万世帯のこれまでTV電波の届かなかった地域ではNHK総合TVの鮮明なデジタル音声放送を直接受信できることになった。これらの離島では本土から船便で届くビデオテープをもう待つ必要がなくなった。

従来は、地上のTV塔から電波の届かなかった地域は、これによって難視聴を解消することができた。また、大都市のビル街で電波障害によってゴースト現象に悩む地区でも、衛星からの電波を通じてきれいな画像を楽しむことが可能となった。BS-IIは放送衛星時代の幕明け第1号である。将来に向けて、この衛星による放送にはニューメディアと呼ばれる文字多重放送、高品位TV放送など多様な情報サービスの実験と技術開発が検討されている。ニューメディア時代の新しいTV放送として、その可能性には人々の期待と注目が寄せられている。

#### し ら せ

南極観測では18年間にわたって「ふじ」(全長100m、5,250トン)が務めを果たしてきたが、老朽化のため引退することになり、その後を大型新鋭艦「しらせ」(全長134m、11,600トン)がバトンタッチすることになった。「しらせ」とは、1810(明治43)年に開南丸で26人の隊員とともに南極をめざし、翌年には日本人で初めて南極大陸に上陸した秋田県出身の探険家白瀬中尉の名にちなんでつけられた。

第25次南極地域観測隊47人を乗せた南極観測船「しらせ」は、'83年11月、真新しいオレンジ色の船体を浮かべながら昭和基地に向けて初航海に旅立った。「しらせ」は「宗谷」「ふじ」に次ぐ第3代目の観測船であるが、従来の昭和基地だけの輸送を主とした役割から、新しい海域での観測調査など多角的な運用が試みられる。「しらせ」は、砕氷、輸送、ヘリコプター空母、観測という4つの機能を持っている。第1に、砕氷時に氷から受ける外圧に耐えるために船体は通常の船よりも強固・堅牢にできている。第2に昭和基地で越冬する約35人の隊員が必要とする全ての物質を積み込む貨客船の役目を負っている。第3に、どんな強力な砕氷力をもってしても、年によっては基地に接岸不能の時もあるため、輸送用ヘリコプターの発着基地の役目を持っている。また、近年南極海での生物・鉱物資源が国際的に関心をもたれ調査も活発化しているため、海洋、生物、地学などの5つの観測室が設けられ、南極海での観測が実施されることになっている。「しらせ」は'84年4月に帰国して国内で訓練航海を続けており、9月には名古屋港でも一般公開された。

#### 徳 山 村

岐阜県揖斐郡徳山村は、岐阜市内から北西約70kmに位置し、福井県との県境にある小さな山村である。ここは揖斐川上流の峡谷地帯で、村民は農業・林業によって生計を立てている。面積は25,356km<sup>2</sup>、人口は'83年5月現在で1,615人である。この村に日本一のダムが出来るという話が持ち上がったのは26年前であるが、'82年11月にダム建設計画が明らかになると、村議会はダム反対を決議した。しかし、その後の紆余曲折を経て'83年11月には徳山ダム対策同盟会が岐阜県庁で協定書に正式調印し、日本最大のロックフィルダムによって全村が水没する運命となった。村人達は'84年の雪解け頃から移

転を開始し、仲の良かった隣人が1軒、2軒と村を出ていくことになった。

徳山村には日本の古語を含む方言が残されており、縄文時代の遺跡も17カ所発見されている。民話や伝統的な行事・儀式も保持され、学問的にも注目を集めている。大晦日の夜に行われる翌年の吉凶を占う「十二灯の神寺」、1月2日に行われる15歳を迎えた男子の「元服」、秋の取り入れが終る11月後半の「お取り越し」——これらは何百年も昔から伝わる村の共同体の伝統行事である。

これまで村人達の食膳を賑わしてきたのは、ダイコンと味噌とトウガラシを一日中煮込んだダイコン汁や山菜のミツバウツギ、干し柿、アマゴなどである。しかし、全てがダムの中に沈み、村人達は故郷を失おうとしている。徳山村の美しい山や川が育んだ人情の厚さも次第に消える運命にあるといえよう。

### 男女雇用平等法案

'84年は、日本の女性にとって3つの大きなことがら、つまり国籍法の改正、男女雇用平等法の制定、「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約」の批准がクローズアップされた。男女雇用平等法についてはここ2～3年の焦点であり、女性の労働権の保障と差別をなくす方向で、各方面での審議がなされてきた。4月には、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を促進するための関係法律案(仮称)要綱」が労働省より示された。その骨子は、(1)男女の募集・採用・配置・昇進の平等化は努力義務とする、(2)現行労基法による女性の時間外・休日労働の規制及び深夜業禁止は工業的業種等を除き原則的に撤廃する、(3)生理休暇は原則的に廃止であるが特例で実質的に存続させる——である。この法案は'72年制定の勤労婦人福祉法の改正の形で提出されているが、経営サイドからすれば、日本独特の労働慣行としての終身雇用制の中でのギリギリの譲歩であり、むしろ反対または時期早尚との意見も少なくない。一方、採用から定年退職までの男女の完全平等を主張する立場の労働サイドからすれば、法案は働く女性の条件としての平等と保護を十分に保障していない。又、仕事と家庭を両立させようとする女性からみれば、むしろ出産・育児に関する条件整備こそ急務であるとの主張も出てくる。

いずれにせよ、男女平等への国際的潮流の中で、勤労意欲と能力のある女性にとっては、「男女雇用平等法」の実現は一つの前進となる。働く女性は雇用全体の約35%を占め、その数は今日1,486万人に達した。働く女性の6割近くが既婚者であり、結婚前の「腰かけ」的な考えの勤め方も減りつつある。上場企業の8割が大卒女子に門戸を閉じている現状も時代の流れに抗し切れなくなってきた。ようやく日本の女性も法的に雇用平等の立場が確保され、男性とともに社会の平和と幸福のために発言できる時代を手にしつつある。

## ブロックIIのキーワード「国際問題」の理解

### 緑の党

'83年3月の西独総選挙では結党5年目の「緑の党」の躍進が目立ち、得票率を前回の1.5%から5.6%に伸ばして、連邦議会の520議席のうち27議席を獲得した。Grünenはgrünの名詞化で正確には「緑の人々」を意味する。新しい生き方を求める無名の青年達が西独の知識層と合流して「反核・反原発・環境保全」をスローガンとする反産業社会運動を展開し、これが新政党Die Grünenとして各地方議会や連邦議会に順次進出するようになったのである。

彼等は西独の現代社会を根本的に見直し、古い世代との亀裂を恐れずに、新しい民主の波としての今までとは違った文化(=alternative culture)を創出しようとしている。従来の社会体制を徹底的に見直し、自然と人間の共生を目ざす新しい価値観に基づく社会を確立しようとしている。Die Grünen進出の背景には、西独を含むNATO(北大西洋条約機構)の核兵器配備をめぐる諸問題がある。Die

Grünen は西独国民に反核の理念を訴えている。彼等は連邦議会で、市民の質問の時間を設けること、特別に婦人問題のための委員会を作ることなど独自の提案も行っている。議員達はセーター、ジャンパー、ジーンズ、反原発のシンボルマークを染めたTシャツ姿などラフないでたちで議会に臨み、胸にはミサイル反対のワッペンをつけたりしている。Die Grünen の幹部にはシンボリック的存在の女性指導者ペトラ・ケリー(前党首)のほかライナー・トランベルト、ウィルヘルム・クナーベ、マノン・マーレン・ギーゼバッハ女史などがいる。

我が国でも西独の動きに触発されたかたちで「日本みどりの党」が神戸で結成され、各地でも同様の動き(「高知県みどりの党」,「名古屋みどりの党」など)が出ている。その理念は環境問題の根源的な解決である。

## I N F

核戦争の脅威を描いた映画「ザ・ディ・アフター」は世界中で大きな反響を呼んだが、東西両陣営では今、こうしたことがいつかは現実になり得る事態が進んでいる。核兵器は、I C B M(大陸間弾道ミサイル)やS L B M(潜水艦発射弾道ミサイル)のように遠距離の目標に対して戦略的な目的で攻撃する戦略核兵器と、核砲弾や核地雷などの戦場にて戦術的な目的で使用される戦術核兵器とに分けられる。

I N Fはちょうどこの中間にあって、欧州とか東北アジアのように限定された地域での使用を目的とする中距離核戦力のことである。ソ連のSSやバックファイヤー、米国のパーシングや地上発射巡航ミサイルはその代表的なものである。ソ連は新鋭の中距離核ミサイルSS 20を配備促進し、他方西側は米国の新鋭のパーシングII型ミサイルを配備してこれに対抗している。パーシングIIは射程が1,800 kmで、ソ連の欧州部分の大都市を攻撃範囲内におさめ、6分でモスクワに到達できる。単弾頭ながらソ連にとっては反撃の時間的余裕のないミサイルであり、命中精度は目標の40 m以内である。SS 20は射程が5,000 kmで欧州、日本、中国にも届いてしまう。1基に3つの核弾頭が装備され、各弾頭は異なる目標を攻撃できるミサイルである。

米ソ間におけるI N F制限交渉は再開と打ち切りが繰り返され、'83年末から中断されたままである。両超大国間の合意は成立しておらず、軍縮への展望は暗い。「ザ・ディ・アフター」が現実にならないために、世界各地では今、大規模な反核運動が展開されている。

## ホルムズ海峡

ホルムズ海峡はペルシャ湾とオマーン湾を結ぶわずか46 kmの水路である。サウジアラビア、イラン、クウェート、イラクなど湾岸産油国からの石油がペルシャ湾、オマーン湾、アラビア海を経て世界中に供給されるが、ホルムズ海峡はそのオイル・ルートの最大の難所である。13世紀、マルコ・ポーロがアジアを訪れた時、すでに海峡の中にあるホルムズ島はイスラム世界で東方貿易の中心地として繁栄していた。

石油時代の今日、世界の石油供給の30%以上、日本の石油消費量の70%近くが通過するこの海峡は西側世界の生命線である。ホルムズ海峡の安全保障は永い間パーレビ前国王のイランがその役割を果たしてきたが、'79年2月のイスラエル革命でパーレビ王朝が倒れ、ホメイニ師を指導者とするイラン・イスラエル共和国の誕生以来、情勢が一変した。'80年9月から始まったイラン・イラク戦争が激化し、'83年2月のイラク空軍の爆撃でイランのノールズ油田から流出した原油はホルムズ海峡に達した。イランは、イラクがエグゾセ(ミサイル兵器搭載のシュペール・エタンダール戦闘機)で艦船を攻撃し原油輸出が不可能になれば「ホルムズ海峡を封鎖する」と公言した。イラン・イラク戦争のあおりで懸念されているホルムズ海峡封鎖が実際に起これば、世界の石油市場は少なくとも一時的な供給不安に陥る。こうして緊張が高まっているため、サウジアラビア、クウェートなど6つの湾岸産油国



はホルムズ海峡を回避しようと紅海側に製油所を建設する計画を進めている。

### グレナダ

グレナダはカリブ海に浮かぶ香辛料の島国である。'83年10月下旬、米軍と東カリブ海諸国6カ国の混成部隊は人口11万余の小国グレナダに侵攻し、同国を制圧した。ソ連、キューバ寄りだったグレナダでは、モリス・ビショップ首相を殺害して全権を握ったハドソン・オースチン革命評議会議長がクーデター後にさらに左寄りの支配を始めようとした。建設中の空港がキューバの基地になりかねぬおそれがあるとの判断から、また米国と対立するニカラグワ社会主義政権へのけん制の意味からも、米軍は戦闘行為にふみきったとされる。グレナダへの米軍侵攻には、ソ連だけでなく、英・仏・西独など米国と同じ西側陣営の国々が非難し、国家の独立と主権尊重の立場から大国の論理に強く反発した。国連のグレナダ情勢緊急討議では撤退決議が採択（日本はこれに棄権）された。米国は国連緊急安全保障理事会でこの決議案に対して拒否権を発動したが、11月に入ってキューバ側の抵抗がなくなったとしてグレナダから撤退し、戦闘行為を終了させた。

1498年にコロンブスが発見したグレナダは、長い間、仏・英の植民地であったが、'74年に英領から独立した。人口の84%が黒人、11%が混血、5%が白人その他であり、英語を公用語としている。メース、ナツメグ、バナナ、ココナッツが主要輸出品であるが、財政は恒常的に赤字であり、歳入の一部をソ連、リビア、東独、ブルガリアなど外国からの援助に依存している。グレナダは経済・政治両面において東カリブ地域でユニークな存在であり、英国とアルゼンチンのフォークランド紛争でもカリブ海諸国の中でただ一国、アルゼンチンを支持した。

### エル・ニーニョ

'82年から'83年にかけての世界的な異常気象に関連して、マスコミではエル・ニーニョという言葉がしばしば登場した。El niñoはスペイン語で子どものことであり、El Niñoは神の子であるキリストを意味する。エル・ニーニョ現象はエクアドルからペルーの南米沖に起こる海流異変のために生ずる異常高温水現象を指しているが、ちょうどクリスマス直後に生ずることが多いのでこの名称がつけられるようになった。

エル・ニーニョは、赤道を東から西に吹く太平洋赤道海域の貿易風が何らかの原因で弱まり、普段は太平洋の西側に吹き寄せられている温かい海水が東側に逆流するために生ずる異常気象である。このため日付変更線から南米沖にかけての赤道付近の海水温は、平均3～4度上昇する。この現象はほぼ10年近くの周期で起こることが観測され、今世紀に入ってからは12回発生している。'82年後半から発生したエル・ニーニョ現象は今世紀最大のものであり、海水温が平均5度以上も上昇した。このためプランクトンが減ってカタクチイワシ（魚粉にして家畜の餌に使用される）がとれなくなり、ペルーの主要輸出産業である魚粉生産は壊滅的な大打撃を受けた。

### セーシェル共和国

人口約7万人のセーシェル共和国は、アフリカの東海岸から1,400 kmに位置するインド洋の超ミニ国家である。住民はアフリカ人及びアフリカ人とフランス人の混血が大部分で、他にインド人、中国人などが住んでいる。宗教はカトリックが大部分であり、言語は公用語の英語、仏語のほかクレオール語が用いられている。セーシェルは、'76年にイギリス連邦の一員として独立し、無血クーデターのち社会主義、非同盟路線を歩んでいる。東西両陣営からの援助と観光収入をもとに、シナモン、コブラの生産と観光収入のみに依存した経済からの脱出を図っている。ルネ大統領（F.A. René、'36年生まれ）は「小国サミット構想」を提唱している。

首都ビクトリア（Victoria）のあるマヘ島を中心に大小約90の島からなる群島は合計すると面積280 km<sup>2</sup>ある。青く澄み渡った大空、エメラルド色に染まった海、緑濃い島影、銀色に輝く砂浜——こ

れらは酔うほどの美しさであり、先進国のあわただしい都会の暮らしを忘れさせてくれる大自然である。セーシェルには「生きた化石」として知られる古生代発生の魚シーラカンスを含め 810 種類の魚と 120 種類の貝が生息している。マヘ島から東北へ約 30 km 地点にセーシェル群島の中で 2 番目に大きい花崗岩の島プラランが浮かぶ。いたるところに熱帯植物が密生し、ココ・デ・メール(地上 30 m にも伸びる双子椰子)も群生している。20 kg もある実がみのり、ココ・デ・メールの葉は世界最大である。黒オウム、青バト、大陸鳥、ブルブル鳥などの珍しい鳥がいっぱいいる。セーシェルは地上最後の楽園である。

### ブルネイ

東南アジアに残る唯一の英国自治領ブルネイが'84 年元旦をもって完全独立した。ボルネオ島北部海岸のマレーシア領サバ、サラワク両州にはさまれた三重県とほぼ同じ面積 (5,765 km<sup>2</sup>) を持つミニ共和国の誕生である。正式国名をネゲリ・ブルネイ・ダルッサラーム (=ブルネイ国家の平和の住むところ) と呼ぶ。95 年間に及ぶ英国支配に終止符を打っての独立である。

住民はマレー系 60%、中国系 24%、他にダヤク族などが住む。公用語はマレー語である。人口 24 万人であるが、そのうち 75,000 人は首都バンダル・スリ・ブガワンに住んでいる。14 世紀以来、祭・政・軍一致のサルタン(首長)制を存続させてきたブルネイは東南アジアで最も敬虔なイスラム教徒の社会でもある。今世紀初頭、英国人が発見・開発した石油、天然ガス(LNG)資源がもたらす富は、この国の国民生活をアジア有数の高さに押し上げた。とりわけ'66 年の LNG 資源の開発成功以来、一挙に東南アジアのリッチ国にのし上がった。ブルネイの輸出総額の 99% は石油と LNG である。ブルネイの一人当たり国民所得(GNP)は日本のそれを遙かに凌ぐリッチぶりである('80 年推定でブルネイの 12,000 ドルに対し日本は 7,200 ドル)。ブルネイでは住民に納税義務はなく、医療・学費は全て政府が面倒をみしてくれる。

日本とブルネイは経済的に深い関係にあり、日本はこの国からブルネイ湾を経て原油と LNG を輸入している。ブルネイ産出の LNG の殆んどが日本向けであり、日本は、首都圏ガスの供給料の約 40% をブルネイ産に依存している。一方、ブルネイは 20 年後の石油資源枯渇に備えて、日本の技術協力のもとに家具・建築の内装などに用いられるラワン材の森林(赤ラワン、白ラワン)育成に力を注いでいる。東南アジアの地域協力機構 ASEAN(東南アジア諸国連合)は、新生ブルネイを迎えて加盟国 6 カ国となり、日本にとってもアジアの友人国が増えたことになる。'84 年 4 月には、現サルタンのムダ・ハサナル・ボルキア・ムイザディン・ワダウラ国王(37 歳)が国賓として夫人とともに来日した。

## ブロックⅢのキーワード「学芸常識」の理解

### 第 2 の太陽系

地球から 26 光年離れた銀河系宇宙のアルファ星ベガ(織女星)の周りに第 2 の太陽系かもしれぬ惑星群を観測したと米カリフォルニア州パサデナのジェット推進研究所が発表('83 年 8 月)した。赤外線天体望遠鏡を積んだ米・英・オランダ 3 国の共同衛星 I R A S (赤外線天文観測衛星)が'83 年 1 月に打ち上げられ、この赤外線を利用した I R A S の天文観測を通じて明らかとなったのである。

ベガはこと座に属する 1 等星で織女星と呼ばれ、太陽系に近い星の代表である。この星は 1 年に 1 度だけ、旧暦 7 月 7 日の夕べに天の川の対岸の牽牛星に会うという伝説を持つ。発表によると、ベガの周りには惑星群とみられる物質の集まりがあり、その物質群は雲のようにドーナツ状をなしてベガを取り囲んでいる。その半径は 80 天文単位(1 天文単位=地球と太陽の距離)である。我々の太陽系では太陽から冥王星まで 46 天文単位だから、これは太陽系の 2 倍の大きさとなる。ベガは生まれてから 10 億年程度とみられ、46 億年の歴史を持つ太陽に比べて非常に若い星である。ベガの周りの物質群の

数、大きさ、密度は明らかではないが、ベガの若さからみて、生成過程にある地球と同じような状態のもの、つまり「若い地球」の存在の可能性も大きい。銀河系宇宙には、我々の太陽系に属する惑星群の世界だけでなく、他にも太陽のような中心の恒星と、これを取り巻いて動く惑星の世界があるかもしれないと、これまでもみられていた。ベガの周囲にある物質の科学的解明によって、太陽系に次ぐ第2の太陽系の存在は一層現実性を帯びてくるだろう。

#### 四万十川

高知県西部、四国山地西縁の不入山、鳥形山付近に源を発して数度転流したのち中村市下田で土佐湾に注ぐ川である。またの名を渡川ともいう。流域面積 2,270 km<sup>2</sup>、長さ 192 km に及ぶ四国第2の川である。数にして 40,010 の流れという意味が川名のルーツである。四万十川は川筋 11 カ村を育み、母なる川と慕われ、一方暴れ川として嫌われてもきた。著しく貫入蛇行し、中流部ではそれが特に著しい。深い峡谷を刻むが、河岸段丘もよく発達している。全体に山がちで森林資源に富んでいる。きれいな川であり、水は清流のまま太平洋に注いでいる。水量は多いものの電源開発は進まず、ダムは一つもない。

豊かで美しい四万十川には 200 親類の水性昆虫が棲むといわれ、それらを食べて生息する魚類も 60 種類いる。天然アユの産卵する川でもあり、特に中流域ではアユがよく釣れる。稚アユは水アカを食べて生長するので水が浄化され、川はきれいである。川にはササゴイ、ウグイ、ウナギ、ヤマトテナガエビもいる。海水と淡水のまじわる湾から 5 里ほどの所には体長 3 cm ほどのゴリという魚が生息し、地元では佃煮や卵とじにして食卓を賑わす。地元の人達は、竹筒・箱ころばし・竹ころばしでウナギをつかまえ、アユの火振り漁、ウグイのイタチ漁も伝統的に行われている。芝つけ漁という魚とりの方法は平安時代からの漁法である。これらの様子は、'83 年 9 月放映の NHK 特集「土佐・四万十川——清流と魚と人と——」で紹介された。

#### イトウ

以前は本州の青森県東部の小川原沼以北にも分布していたが、今日では北海道の釧路や根室など海岸付近の一部の川や湖沼にしかいない幻の魚である。国外ではサハリンやクリール列島に分布している。淡水魚の王者といわれ、体長は 1.5~2 m になって日本の川魚の仲間では最大である。ニジマスに近いサケ科の冷水魚で、淡い赤紫色の体に濃褐色の小さい斑点がある。体形はわりとスマートであるが、下アゴが張りいかにもどう猛な肉食の魚である。大きな両アゴと鋭い歯で自分の体長に近い大きさのヘビや生きた魚を捕食する。ネズミを呑み込んだり、水鳥まで襲うことがある。'84 年 6 月、三重県の志摩マリランドにもイトウがお目見えした。

#### メルルーサ

メルルーサは硬骨魚類 (Teleostei) のタラ科の 1 科に属する深海魚である。北西太平洋を除く世界の沿岸海域に分布するタラ科近縁の底生性の魚であり、主にアフリカ沖、アルゼンチン沖、チリ沖の水深 200~800 m ほどにすんでいる。日本の近海にすむスケトウダラ、ソコヒゲダラ、コマイ、イソアイナメなどのタラに似ているが、全長は 1 m を越える。体色は灰白色である。

北大西洋では古くから漁獲され、大衆魚として食用にされてきた。資源量は北洋のスケトウダラに匹敵するほど多く、近年では南アフリカ沖、アルゼンチン沖、チリ沖などのメルルーサ類が遠洋漁業の対象となっている。肉質は白身でやわらかく、味もいいので総菜用として普及している。メルルーサは美味なため、スペイン料理では高級料理に用いられる。

#### アルハンブラ宮殿

アルハンブラ (スペイン語ではアランプラ) は、スペインのアンダルシア地方のグラナダ県内にある 3 つの丘の 1 つの名前である。これは、イスラム語で「マディーナ・アル・ハムラ」(赤い城)を意

味する。素晴らしい眺望を持つ丘で、青空のもとでは淡紅色の城壁や銃眼つきの塔の色がひとときわ鮮やかに浮きでることからこの名がある。

シエラ・ネバダ山峰を背景として、眼下にダロ川を見下ろす岩場の上にアルハンブラ宮殿がある。それはアルカサル(王宮)といわれるイスラム風の宮殿、カルロス一世の宮殿、パルタルの庭、ヘネラリフェの庭といった宮殿の複合体である。つまり、イスラム教徒達が14世紀に完成させた繊細優美なイスラム文化の代表的建築と、その後カルロス一世が建てたルネサンス様式の冷厳なカトリック建築の複合体である。イスラム教徒のグラナダ王宮は大理石の柱や、アーケード、噴水、ライオンの中庭などによって構成され、これらの繊細な調和はイスラム芸術の極致である。噴水や草花で涼を呼ぶヘネラリフェの庭は当時の王侯の憩いの場であった。

13世紀半ばにコルドバとセビーリヤはキリスト教徒の手によって陥落したが、アルハンブラを拠点とするグラナダ王国は15世紀末まで存続した。その250年間、グラナダ王国は、キリスト教スペイン国家の重臣のもとに洗練と爛熟のイスラム文化の粋を培ってきた。アルハンブラ宮殿の美しい建築はその結晶である。1492年1月1日、フェルナンドとイサベルのカトリック両王の軍旗がアルハンブラの高い塔の上に翻り、グラナダ王国最後の王ボアブディルは遂に征服された。以後、グラナダは再びキリスト教世界の一部となり今日に至っている。しかし、西洋にとってアルハンブラ宮殿は「最も近い東洋」であり、グラナダを訪れる人々の目を楽しませている。

#### ソグド商人

中国の歴史書に「胡人」と記されるソグド人は、東は長安から西はコンスタンチノーブルまで、古代・中世シルクロードの東西貿易を一手に担った天性の商人である。彼等はオアシスの定住民で手工業・商業・貿易にすぐれ、西はイラン高原、西南アジアから東は中国にいたるまで広範囲な地域にわたるオアシス都市に居住し、盛んに経済・商業活動を営んだ。また、文化の担い手としてオアシス定住民と遊牧民との仲介の役割を演じ、シルクロードを通じての東西文化の交流も彼等に負うところが大きい。中央アジアにおけるソグド人の活躍は6～8世紀がその最盛期であり、彼等は商品だけでなく宗教(ゾロアスター教、マニ教など)や芸術まであらゆる文化を運んだ国際商人であった。ソグド人の商人魂によって唐の都長安に運ばれた各国の特産物や宗教・芸術が国際色豊かな長安の文化を花咲かせたのである。しかし9世紀に入ると、アラブ人の勢力に追われてソグド人とその文化は急速に衰え始めた。彼等はアラブ人の襲撃によってサマルカンドやペンジケントの都から中央アジアの山奥深く逃げ込み、シルクロードの共通語としてのソグド語もソグド人滅亡とともに幻の言語になったといわれる。

'84年2月放映のNHK特集「シルクロード第2部・消えた隊商の民——ソグド人を探す」では、絶妙な商才を駆使したソグド商人の末裔が住むといわれるソ連領中央アジアの最深部タジク共和国が映像紹介された。タジク共和国はその93%が山岳地帯であるが、首都ドシャンベは人口52万人の近代都市である。ソグド人の血を最も濃く受け継ぐといわれるのがソグド人であり、中でもザハラバード地区の山奥深い谷間にはソグド人直系子孫のヤグノブ人が今なお3～4,000人住んでいる。NHK取材班とヤグノブ人との劇的インタビューは、日本語—ロシア語—タジク語—ソグド語の4段切り換えによって行われた。

#### ガンダーラ美術

'84年2月のNHK総合TVでは、「ガンダーラ・仏教誕生のロマン」と題してガンダーラの仏教遺跡と美術が映像紹介された。パキスタン西北部のガンダーラ地方は、ペシャワールを中心として古くから西と東の世界を結ぶ歴史の舞台であった。この地方には、インドの釈迦牟尼によって紀元前6世紀に誕生した仏教が伝わっていたが、紀元前4世紀にカイバル峠を越えて東征してきたアレクサン

ダー大王によってヘレニズム文化が伝播した。ヘレニズム文化とはギリシア風とオリエン特風の特異な混合文明であり、西方から新しく入ってきたヘレニズム文化がガンダーラの地で仏教と溶け合い、両者の融合したガンダーラ美術が発生した。インドに仏教が生まれた500年後の紀元前後に、ガンダーラの地において初めて仏陀の像つまり仏像が作られたのである。それはヘレニズム文化の影響を受けたギリシア式の仏像彫刻であった。

タキシラ・シッカップの遺跡、スワート・ディールの遺跡は当時の仏教美術の面影を今日なお残している。ガンダーラ地方を支配したインドのクシャナ朝にカニシカ王が出現して仏教を保護奨励すると、ガンダーラ美術も一段と発展し、紀元1～2世紀にはその最盛期を迎えた。こうしてガンダーラ美術は紀元前後から6世紀にかけて栄えたが、この仏教美術は中央アジアのヘレニズム文化を経由して敦煌に伝わり、さらに雲崗を経て日本にも伝播した。日本の仏教において今日なお大きな位置を占める仏像は、そのルーツを探るとガンダーラの仏教美術に端を発しているのである。

### モン族

古くは中国の中・南部山岳地帯に広く分布していたが、19世紀末に諸民族の圧迫を受けて次第に南下し、インドシナ半島の高地にも住みついた。現在、中国以外にはベトナムに22万人、タイに5万人、ビルマ・ラオスに15～25万人住むといわれる。モン族は中国語の「苗」に由来し、別称メオ(Meo)族とも呼ばれる。

ラオスでは71年にケシの栽培を含むアヘンの製造・販売・吸飲を禁止する法律が成立した。この法律はラオス北部の山岳地帯のモン族にとってはショックであった。アヘンは、長いあいだモン族最大の現金収入源だったからである。ケシ栽培は中国から保持してきた技術であり、竹製の水パイプでアヘンを吸飲するモン族の女も珍しくはなかった。密林や山頂に村を作るモン族にとって、アヘンは低地からやってくる商人に売ると確実な現金収入源となる商品であった。

モン族の住む高地の森林には何百本もの山道が縦横に走る。へんぴな山村に住む彼等にはこれが重要な交通路であり、輸送用として馬を使っている。牛、豚、鶏、山羊などの家畜を飼育し、高地でリンゴ、オレンジ、モモ、キャベツ、カリフラワーなどの果実・野菜を栽培している。焼畑農耕を行い陸稲とトウモロコシを主要作物にしている。トウモロコシからはおいしい地酒が作られる。彼等はきれいな刺繍をほどこした色彩豊かな服装を好む。衣服の色は各々の氏族集団によって異なることが多く、ラオス・タイ・ベトナムでは色の違いによって白モン族、赤モン族、縞袖モン族、花モン族などと呼ばれている。

モン族の男女は、同棲期間をおいた後に正式結婚する。娘の結婚年齢は14～16歳である。新年になると若者の男達は他の村に出かけ、儀式的なゲームを行う。若者は自分が選んだ相手に、布切れで作った特製のまりでキャッチボールをする。これがプロポーズである。正式に婚姻が決まるまでの期間も性関係はかなり自由で、ある程度同棲期間がおかれる。モン族では一夫多妻制もまれではない。複数の妻を持つことは耕作面積がふえることを意味する。モン族は衛生面では比較的無知であり、食生活も豊かではない。しかし、温度差の激しい高地にも拘らず、頑強な体格によって日々を生き抜いている。

## ブロックIVのキーワード「科学技術・経済問題」の理解

### 高品位テレビ

高品位TVは高解像度TV、高精細度TVともいわれるが、名前のとおり、現在のTVよりも良質の音声ときめ細かい鮮明画像を提供するTVである。番組内容の質がいいという意味ではなく、画面の鮮明度が高いTVのことである。

その秘密は走査線の密度にある。TVのしくみは、送ろうとする画像を多くの線に分け、その線上で画の明暗や黒白を電気の強弱に変えているが、この線を走査線という。現行のNHK、民放の場合は525本の走査線が用いられている。高品位TVでは走査線が現行の2倍以上となり、チャンネル数も数倍となって放送衛星の利用や文字多重放送も容易に行うことができる。TVの歴史からすれば、高品位TVは白黒TV、カラーTVに次ぐ世代に当たるため第3世代TVともいわれる。NHK技術研究所による高品位TVの開発によって、日本のTV放送技術は新しい局面を迎えつつある。

### ニューメディア

ニューメディアは情報の新しい伝達媒体を意味する。従来の情報伝達媒体は新聞、ラジオ、TVが中心であったが、マイクロエレクトロニクス(ME)を始めとする科学技術の発達に伴って多種多様なニューメディアが相次いで開発され、急速に普及し始めた。

ニューメディアの範囲は、大別して無線系、有線系、パッケージ系の3つに分けられる。電波利用の無線系には、文字多重放送、衛星放送(SHF)、高品位TV放送、ファクシミリ放送、静止画放送などが含まれる。電話回線利用の有線系には、キャプテンシステム、CATV、電子郵便、高度情報通信システム(INS)、データ通信、画像応答システム(VRS)などが含まれる。持ち運び自由なパッケージ系には、VTR、ビデオディスク(VHD)、コンパクト・ディスク(CD)、光ディスク・ファイル、フロッピー・ディスクなどが含まれる。

ニューメディアの特徴は、大半が特定の層を対象にしていること、利用者が必要に応じて情報を取り出せること、原則として有料であることなどを指摘することができる。また、パーソナル・コミュニケーションとの併用が可能となり、受け手の情報処理技術の進歩によって、送り手との対等性が実現する。従来のメディア間の垣根も取り払われていくだろう。様々なニューメディアが複合化・高度化して、情報化社会が一層推進されることになるだろう。ニューメディアの一大実験は科学万博EXPO'85でも繰り広げられる。

### 半 導 体

銅や鉄などの金属のように電流をよく通す良導体とガラス、ゴム、硫黄、雲母のように電流を通さない絶縁体との中間に位置する物質は、「半ば電気を導く」という意味から半導体と呼ばれている。半導体は温度が極めて低い状態では絶縁体であるが、温度が高くなると次第に自由電子が動き回り、電流が流れやすくなる。シリコンやゲルマニウムのようにごく限られた元素は、単体それ自体でも半導体の性質を持っている。

これらの元素にヒ素、アルミニウム、インジウムなどの微量の不純物を混ぜると化合物半導体が作られる。例えば、純粋のシリコンにアンチモンを少量加えたり、ガリウムにヒ素を組み合わせたりして化合物半導体が作られる。含有不純物によって電気抵抗が変わったり、光や熱、磁気などによっても抵抗が変わる性質を持つようになる。化合物半導体素子は、コンピュータ用の素子として現在利用されているシリコン半導体素子よりも5倍以上の計算速度が得られるため、ジョセフソン素子とともにポスト・シリコンの有力候補である。今世紀最大の発明の一つにあげられている半導体レーザーも化合物半導体によるものであり、各種発光ダイオードも同じ仲間である。

半導体は第2次大戦後急速に開発が進み、真空管を駆逐してきた。現在ではトランジスタ、IC(集積回路)、半導体メモリーなどの電子的素子として多用され、エレクトロニクス機器の小型化と性能向上に貢献している。半導体は電子工学の重要部品として広く応用され、とりわけ化合物半導体は次世代の超大型・超高速コンピュータ用として期待されている。

### バイオテクノロジー

あらゆる生物の生命活動のしくみを科学的に究明し、人類のために役立たせようとする産業技術で

あり、現代の工業・農業技術に利用されつつある。生命工学または生物工学をバイオテクノロジーと呼ぶ。酒や味噌を製造する伝統的な発酵技術も一種のバイオテクノロジーであるが、遺伝子(DNA)工学や細胞融合技術の登場によってその応用範囲が飛躍的に拡大し、マイクロエレクトロニクスと並ぶ'80年代の最先端技術分野となった。遺伝子組み換え技術で、人間のホルモンやワクチン類を細菌類に大量生産させられることから、医薬品メーカーがまず取り組み始めた。

現在実用化が最も注目されているものにはインターフェロン(IF, 制ガン剤)やインシュリン(糖尿病薬)があり、米国ではこれら遺伝子工学に依拠したベンチャー・ビジネスが続々誕生している。農業、化学工業分野への応用が最も有望視され、効率的な育種や花卉生産面の園芸農業、酵素反応を利用した環境浄化や省エネルギー生物体資源の開発が進行中である。'80年代の日本もバイオテクノロジーの時代を迎えて、産業や企業が一大変身を遂げようとしている。

### バイオマス

バイオ(生命)とマス(集まり)との合成語で、植物体の総量を意味する。太陽光のエネルギーを利用して無機質から有機質が合成されるが、それは植物、動物、微生物などの生物の形態変化を経たサイクルによって、再び無機質にもどる。このような地球生物圏の物質循環サイクルに組み込まれる全ての生物有機体をバイオマスと呼んでいる。

このように、バイオマスは本来は生態学の用語であり、一定地域内に生存する生物群の量を意味している。「生物量」「生物体量」が訳語として用いられてきた。近年は未利用植物を中心に将来の有力な「生物系資源」の意味に使われている。最も期待されているのは生物資源のエネルギー源への利用である。大本性植物、単本性植物、水生植物、海藻、微小藻類、生物廃棄物、下水汚泥、農林水産物残渣などの生物資源を分解発酵や熱分解のプロセスを経てエネルギー(アルコール、ガソリン、ガス)に転換するのである。エネルギーへの転換法としては、発酵によるアルコール化、メタン発酵によるガス化、溶媒による炭化水素の抽出などの技術が開発されつつある。

生産されたエネルギーは、自動車燃料、工業原料、一般家庭用に用いられることになる。あすの有力なエネルギーとしてのバイオマス資源は、農林水産技術会議が'82年より10年計画で研究開発を着手させた。民間での企業化も活発化しつつある。

### 外食産業

食生活の個性化と多様化を反映して、弁当店、カジュアルレストラン、カフェバーなど新しい形態の外食産業が登場している。飲食店業界全体としては、'82年度には売上高トップの日本マクドナルドが700億円台にのせ、'83年にはロイヤル、レストラン西武も外食産業としての形態を整え始めた。

ここ1~2年で最も人気を呼んでいるのが持ち帰り弁当店である。数年前までの持ち帰り寿司の勢いが弁当店にとって代わられたかっこうであり、温かいご飯と手軽な値段が人々に好評である。現在、「ほっかほっか亭」を筆頭に「ホットフーズ」「こがねちゃん弁当」「本家かまどや」の4社がその大手である。また、店内のレイアウト、内装、サービス面でもきめ細かな演出をし、食事の場を楽しさを加えたカジュアルレストランも人気を集めつつある。これは新しい食文化を生み出したファミリーレストランが頭打ち傾向になるとともに、その改善策・打策として登場したものが多い。喫茶店、バー、レストランの3機能を持ち合わせた「カフェバー」も増える兆しにある。これは、1人でもコーヒーを飲んだり、グループで酒や食事を楽しんだり、客が好みに応じて使い分けられる「多目的空間」の新型カフェテリアである。

こうした外食産業の誕生と発展は、食生活がますます個性化、多様化しており、既存店舗では客を引きとめるのが困難になっていることに対応したものである。フランチャイズチェーン(FC)ストアと外食産業はかかわりが深い。'83年の動向の中で注目すべきことは、通産省が4月からFCの近代

化のために登録制度を発足させたことである。

### ソフトノミックス

最近の日本経済をつき動かす底流として働いている力を表現して、「ソフト化」が叫ばれるようになった。経済審議会長期展望委員会が'82年6月に発表した報告書「2000年の日本——国際化・高齢化・成熟化に備えて」と大蔵省の委託による「経済の構造変化と政策の研究会」が'83年6月に発表した「ソフトノミックスの提唱」がその震源地である。

前者によれば、「ソフト化」とは、モノ・資源などの「ハード」よりも知識・サービスなどの「ソフト」の評価が相対的に高まるという変化を総称したものである。日本経済の一つの潮流としてのソフト化は、付加価値の高い知識集約型の産業・サービスなどの増加はもとより、モノについてのソフト化(衣料のファッション化など)、同一産業内でのソフト関係の売り上げの増加など多様な形態をとって進展するものと考えられている。

後者によれば、日本経済は工業化による量的拡大の時代からソフト化、サービス化の時代へ移行したとされる。そこでの主な特徴は、第3次産業への雇用と国民所得の増大、企業内部での開発、調査、企画などのソフト面の重視、消費者のモノ離れの進行である。

経済ソフト化の時代には、モノではなくサービスを売買する産業が増大する。引越サービス、結婚情報(縁談)サービス、ホームショッピングを先取りする宅配スーパーシステム、家庭経済の外部化としての外食産業など知恵と才覚を生かしたサービス産業が、モノの生産・使用とからみ合いつつ盛んになっていくだろう。こうした特徴をまとめる表現として「ソフトノミックス」なる造語が生まれた。ソフトノミックスとはソフト化を見せる経済の構造的変化に対応した経済運営、経済政策のことである。

### 宅 配 便

宅配便は、路線トラック輸送の一形態で、特に小さな荷物を対象としている輸送システムである。電話1本で家庭まで取りにきてくれて、届く日は地域ごとに明確になってくる。宅配便の利用者は、家庭や小売店が非常に多い。単身赴任者の洗濯物、旅行・里帰りの着替えや土産品、結婚式の衣装などの輸送にも気軽に利用されている。

宅配便という輸送サービスは、米國小荷物専門輸送会社UPS(United Parcel Service)をモデルとして、'76年に大和運輸(クロネコヤマト)によって開始された。「宅急便」の名前で売り出したところから、今でも宅急便が宅配便の一般呼称と間違えて用いられる場合もある。その後続いてペリカン(日本通運)、フット・ワーク(日本輸送)、カンガルー(西濃運輸)などをはじめ数多くの路線業者がノラクロ、ダックスフント、ツバメ、クマなどの動物をキャラクターに使用して参加した。

最初の'76年度における取扱い量はわずか171万個余りであったが、年々大幅に拡大し、'82年度には郵便小包取扱い個数を抜き、10倍強の1億7,500万個となった。「速い」「安い」「確実に」をモットーとする宅配便をめぐる競争は業者の相次ぐ参入で激烈となっているが、ややもするとサービスも愛想もよくない公の輸送事業に対して、民間の宅配便の需要は今後も高まることが予想される。

### お わ り に

本稿では、「Key Words Picture II」の配列順序に従ってブロックI~IVまでの「時事問題」「国際問題」「学芸常識」「科学技術・経済問題」に関する29のキーワードについて扱った。各々のキーワードのルーツを尋ね、その背景について説明を試みることに努めた。願望や創作をできる限り抑制し、事実そのものを淡々と述べることに重きを置いた。何故なら重要な事実を記録し、それを書き残す作業は現代という時代の日常を科学することに他ならないからで



ある。TVというマスメディアには乗らない情報もあり、その点でTV番組表からとらえたキーワードだけからではバイアスのかかった現代社会を見つめることになる。しかし、バイアスのかからない現代社会の把握はどのみち不可能であり、本稿では現代社会を見る一つの手段としてTV番組表という枠組を設定している。一般市民・素人向けのTVからとらえるからこそ、逆に現代社会のホンネを引き出し得るという利点があるかもしれない。本稿に取り上げたキーワードはいずれも現代社会の本質に迫る入り口にすぎないのであって、内容的には不十分である。しかし、TVがそうであるように、本稿は事実の本質に迫るためのモチベーター、ペースメーカーとしての意味を持っている。

さて、ここでTV情報のもついくつかの特徴と筆者の観点についてまとめておきたい。TVを見ていれば世の中のことがわかるようになった時代に我々は生きているのであるが、まず第一にTV番組表から抽出したキーワードからとらえる限り、今日の人々の関心事は人文的カルチャーよりも科学的カルチャーに移行していることがわかる。それは、「科学万博」「放送衛星」「高品位TV」「ニューメディア」「バイオテクノロジー」「バイオマス」などのキーワードに端的に示されている。今日は科学技術優位の時代だといえよう。

第二に、マスメディアとしてのTVには、その年その年の番組の「はやりすたり」という傾向が見られる。しかし、近年では一貫して国際的規模のトピックスや時事問題がTVに大きくクローズアップされるようになった。現代に生きる人々にとって、地球は心理的にますます小さくなりつつあり、政治や経済の面からも地球的規模の問題がTVに登場する率が高くなった。中でも大きく取り上げられ話題になったのは「INF」「緑の党」「ザ・ディ・アフター」などのキーワードに象徴されるように、核戦争・反核運動に対する関心である。世界のどこかでひとたび核戦争が勃発すれば、地球上の生物が一瞬にして滅びるといふ時代に我々は生きている。TVは、こうしたとらえ方が今日の国際社会を認識するうえでの基本的前提であることを教えてくれた。TVは国際社会に通用するセンスを我々に身につけさせてくれた。

第三にTVが我々の前に繰り広げる多様性は実に驚ろくべきものである。これら雑多な情報を統合して確かな知識に体系化することは並大抵ではできない。ただしこま切れでござませのTV情報を一つ一つ取り上げて網羅することはある程度可能であり、それは百科全書的な社会的博物学を構築することにつながる。TVが断片のよせ集まりとしての現実世界を反映するメディアであってみれば、TV情報を一つの究極的な原理・体系にまとめあげるといふ無理な願望は捨てて、情報の網羅主義・百科全書の整理に徹しなければならない。つまり情報の網羅性を情報の体系性に優越させなければならない。情報理論は体系性からでなく網羅性から始めなければならないのである。しかしそれにしてもTV情報は「まだまだたくさんありますよ」であって、我々はTV情報の吸収に対する不完全宣言をせざるを得ない。

第四に、ござませのTV情報をあれこれ分析し総合する努力を重ねる中で、我々は現代社会に対する総合学習を行っていることに気付く。それは特定の教科の学習ではなく、いわばオールラウンドな総合教科の学習である。それは大正期の新教育運動家の一人木下竹次が唱えた「合科学習」にも一脈通ずるものであり、我々はTV番組を一つの生きた教材として現代社会を総合的に学習していることになる。TV番組はセミのぬけ殻としての死んだ教材ではなく現実との緊張関係を保ち続けるダイナミックな教材である。教材としてのTV番組表の分析と総合は現代社会を切り拓いて未来社会を志向するものである。

## 参 考 文 献

- 1) 「毎日新聞」 1983年7月1日～1984年6月30日号, '83年1月1日号
- 2) 伊佐治大陸：名古屋女子大学紀要, 30, (その4), (その5), 109～144 (1984)
- 3) 自由国民社版：現代用語の基礎知識 1984, 自由国民社 (1984)
- 4) 世界大百科年鑑 1984, 平凡社 (1984)
- 5) 日刊工業新聞編集局編：1982年版産業用語事典, 日刊工業新聞社 (1982)
- 6) 日本実業出版社編：カタカナ用語と略語 3300 辞典, 日本実業出版社 (1982)
- 7) 朝日新聞社編：新聞のことば事典 1984, 朝日新聞社 (1983)
- 8) 朝日新聞社編：史料明治百年, 朝日新聞社 (1966)
- 9) 大日本百科事典編：JAPONICA 時事百科 1984, 小学館 (1984)
- 10) 朝日新聞社編：高校生のための「現代社会」Part 2, 朝日新聞社 (1984)
- 11) 黒田敏夫編集：世界地図帳, 昭文社 (1983)
- 12) 世界大百科事典, 18, 平凡社 (1981)
- 13) 世界大百科事典, 34, 平凡社 (1981)
- 14) ブリタニカ国際年鑑 1983, ティビーエス・ブリタニカ年鑑株式会社 (1983)
- 15) ブリタニカ国際年鑑 1982, ティビーエス・ブリタニカ年鑑株式会社 (1982)
- 16) 池田末則監修：日本全河川ルーツ大辞典, 竹書房 (1979)
- 17) 谷岡武雄, 山口恵一郎監修：コンサイス地名辞典—日本編一, 三省堂 (1975)
- 18) 宮地伝三郎他：原色日本淡水魚図鑑, 保育社 (1963)
- 19) 小野田勝造, 小野田伊久馬：内外動物原色大図鑑, 誠文堂新光社 (1940)
- 20) 遠藤左介編集：COLORAMA 21世紀世界百科カラマ, 9, 主婦と生活社 (1979)
- 21) 朝日旅の百科・海外編4 スペインII・ポルトガル, 朝日新聞社 (1980)
- 22) ブリタニカ国際大百科事典, 11, ティビーエス・ブリタニカ (1974)
- 23) 世界民族大百科, 6, 13, 日本メールオーダー
- 24) 朝日新聞科学部：最新科学技術用語の意味がわかる辞典, 日本実業出版社 (1984)
- 25) ダイヤモンド社編：時事問題の基礎知識 1983, ダイヤモンド社 (1983)
- 26) 榊原昭二：ことろぐ'82, 大修館書店 (1982)